
砂漠と雨の日

euReka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

砂漠と雨の日

【Nコード】

N3675H

【作者名】

euReka

【あらすじ】

「……色んなものから逃げなくちゃならないんだ——くだらないゲームが、終わるまでは」。砂漠をさまよう主人公と、雨の日を過ごす子供の物語。

きつと幻覚だろうなと僕は思った。

「あたし雨が好き」

赤い傘の下から、そいつは小さな顔を覗かせて言った。

「だってお気に入りの傘さしてね、ピカピカの長靴はいたらね、あたし何だって平気なの！」

ここは間違いなく、カラカラに乾燥した砂漠の真ん中だった。

「ねえ君……」僕は、砂漠の真ん中で赤い傘を差したそいつに言った。「水持っていないかな？　僕、もう三日も水を飲んでないんだよ……」

「水？」そいつは不思議そうな顔をしながら僕を見た。「空に向かって口を開けてみたら？　そこらじゅうに雨が降ってるでしょ」

僕は空を見上げた。まるで青ペンキで塗りつぶしたような平べったい空が、どこまでも広がっていた。

「そうだね……」僕は砂に埋もれかけた足元を見ながら言った。「

君はやっぱり幻なんだね」

「マボロシってなあに？」

「夢みたいなものさ」

「夢ってすてき……」

僕は乾いた砂の上に腰を下ろすと、死んだようにうなだれていた。そいつは赤い傘を差して歩き回ったり、砂に絵を描いたりして遊んでる。

「♪おこりんぼうのゴリラさん　だけど猫にはやさしくて　そっと頭をなでました♪」

ふと遠くに目をやると、空が黄色く濁っているのが見えた。

砂嵐だった。

「♪猫はきまぐれ、たそがれて　ゴリラにさよならいいました♪…

…」

僕はそいつの手を引っ張り、窪んだ場所を見つけて身をひそめた。「ねえ、かくれんぼしてるの？」とそいつは僕に尋ねた。「鬼はだれ？」

「鬼なんていないよ。でも、色んなものから逃げなくちゃならないんだ——くだらないゲームが、終わるまでは」

僕たちの頭上で砂嵐が狂ったように吹き荒れた。そいつの赤い傘は、まるで木の葉のように空へと吸い込まれていった……。

嵐が去ると、また青ペンキの空が広がった。赤い傘はもうどこにも見当たらなかった。

そいつは急に泣き出した。

「だってね、傘なくしたらね、母さんきつと悲しい顔するもん……」

僕たちは赤い傘を探してそこら中を歩き回った。

砂漠の地平線に日が落ちる頃、砂から突き出した傘の柄を見つけた。僕は砂に埋まった傘を掘り出し、壊れていないか具合を確かめた。

「大丈夫みたいだ」僕はそいつに傘を渡した。「穴一つ空いてないよ」

夕日に照らされた砂漠には、僕とそいつの影がどこまでも長く伸びていた。

「もう帰らなくちゃ」そいつは傘を閉じて言った。「さようなら、マボロシさん。早く夢から醒めるといいね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3675h/>

砂漠と雨の日

2010年12月9日04時50分発行